年頭挨拶

明けましておめでとうございます。
皆さま、穏やかな年末年始を迎えられたことと
お慶び申し上げます。

さて、2019 年末に新型コロナウイルスの感染拡大が確認され、社会・経済環境のみならず個人の生活に至るまで全世界に多大な影響が及ぼされました。以降も、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や中東地域での紛争、不動産不況や供給過剰構造に端を発した中国経済の不振の長期化、トランプ関税や各国の保護主義的措置にともなう貿易の分断傾向など、企業活動においても多様なリスクに対峙せざるを得ない状況が続いています。

昨年の日本経済を見ても、未だ自動車産業に力強い回復が見られず、人手不足による建設工事の遅れ、住宅着工戸数の減少等により内需は盛り上がりに欠ける一年となりました。年度ベースの GDP 成長率では昨年度比微増となるとの予測もありますが、物価高の影響による個人消費の伸び悩みや輸出環境の不透明感等があり景気の下振れリスクは払拭できておりません。

本年も引き続き政治、経済、社会のあらゆる面で変動要因が多く、耐火物業界の主要取引先である鉄鋼業においても大幅な量の回復を見込むのは困難な状況にあります。また、国内の需要構造の変化や CO_2排出量削減、労働人口の高齢化と技能伝承は足元の対処すべき課題であると同時に、中長期的な視点で計画的に取り組んで行くべき重要なテーマです。

会員の皆様それぞれが、さらなる生産性の向上や効率化、新商品開発および供給網の拡大を通じた付加価値の増加やサービスの充実に様々な手法を駆使して取り組むことにより、耐火物業界がサステナブルで強靭な産業として今後も存在感を発揮しくことを切に願っております。

また、安全に関し、昨年は課題の残る一年となりました。労働災害が頻発する中、昨年 9 月には「安全への呼びかけ」のメッセージを発信し、労働災害撲滅への協会一丸となった取り組みをお願いいたしましたが、休業件数は昨年比増の結果となりました。

安全は経営の健全性を示す重要な指標の一つです。耐火物業界が「なくてはならない産業」として安定した生産活動を続けて行くために、また従業員の皆さまが安心して仕事に取り組める環境を整備するためにも、無災害達成を目指し会員の皆さま一人一人が日々安全を意識した行動を取っていただきたいと思います。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

末尾となりますが、会員各社のより一層のご繁栄と従業員ならびにご家族の皆様のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

皆さま、ご安全に！

2026 年 1 月

会長　江川 和宏